

事業承継に関心を持った親子にたいしては、話を掘り下げ、資産相談課や金融共済部、支店と連携して、経営の試算、贈与・相続対策や経営改善の提案を含む計画書を作って、提案と話し合いを繰り返す。部署間で専門的な知識を共有するために、協議会を設置したほか、日常的に情報交換して、提案の精度を高めた。

水稲の作業受託と白ネギなどを生産する農家・村田英一さん(79)・潤一さん(51)親子は、渉外TACでアグリセンター野田の係長を務める浅川茂さん(51)から声をかけられ、事業承継に取り組み始めた。

地域に還元する事業承継

「いきなり事業承継と言っても、身構える人が多い。そこで、たまには親子で話してみませんか」と、『親と子の経営内容報告会』を提案します。子が経営について知りたいと思っても、親が現役だと、なかなか話を切り出せません。TACが間に入ることで、話のきっかけができます」

「父が経営の流れをすべて把握している安心感もあって、これまでまったく話をしませんでした。いまはわたしが白ネギの生産を一手に引き受けていますが、それが経営にどう位置付けられているのかを知り、農地、そして産地を守っていきたいという思いがいつそう強くなりました」

と潤一さん。出荷などで、毎日のように潤一さんと顔を合わせる浅川さんはこう話す。「最初は、組合員の経営にここまで踏み込んでいいのか?と不安に感じることもありましたが、同じ農家は一つとしてないのだから、状況を正確に把握しなければ、ベストな事業承継ができません。だからこそ会話が生まれ、信頼関係を築けます。事業承継の取り組みが、組合員、地域、そしてJAにいつか還元されると思うと、楽しみだと思えます」



農業にたいする思いを事業承継ブックで整理

「親と子の経営内容報告会」のさいに、『今すぐ始めよう! 事業承継ブック ～親子間の話し合いのきっかけに～』の「気持ちを伝えるシート」が日ごろ言えない思いの丈を伝えるのに役立つという。10年先までのライフプランを立てるページもあり、孫の代も見据えて考えられたという組合員の声も



JA全農のHPで事業承継ブックを公開中!

できることから
少しずつ
農家の状況に
応じた支援

イラストはJA全農TAC推進課と地上編集部によるコラボキャラクター「TACマン」



専任TACと渉外TAC 役割分担で効果的な提案

専任TACは管内全域を訪問対象とし、水田複合経営の提案や、集落営農組織の設立支援、新規就農支援など、JAの他部門だけでなく、行政や会計事務所と連携して解決策を提案する。渉外TACは、生産資材や農業機械などの経済事業に関する提案活動、営農・販売技術の指導、米の出荷契約・肥料・農業予約の受け付けなど、組合員と密接に関わるなかで、ニーズや不満などの情報を集め、それに確実に応えることで、信頼関係を築いている。両者の情報共有が、事業承継の提案でもカギとなる



JA金沢市

石川県のほぼ中央に位置する。平坦地区、山間地区、砂丘地区など多様な土地条件を生かし、水稲をはじめ、サツマイモ、スイカ、ダイコンなどの野菜類、リンゴ、ウメ、ナシなど果樹のほか多品目生産されている。2013年に5人体制でスタートしたTACだが、18年には30人に増員。活動への評価が組合員の口コミで広がり、訪問軒数も105戸から683戸に増えた。

部署間連携で 全方位からのサポートを

—— 石川県 JA金沢市

農業における家族経営の事業承継は、たんなる「土地や財産の相続」にとどまらない。JA全体での体制づくりを背景に、「人」「モノ」「お金」「情報」「顧客」の5つの項目すべてにおいて、万全なサポートに取り組むTAC(地域農業の担い手に向く担当者)の活動は、11月に開催された「TACパワーアップ大会2018」でJA特別表彰(事業承継部門)の栄誉に輝いた。

鈴木千佳=写真 photo by Chika Suzuki JA全農TAC推進課=企画協力



写真左から、押田さん、村田潤一さん、浅川さん、酒井さん。村田家では、水稲、白ネギのほか、加賀野菜の「金沢一本太ねぎ」を生産する



「JAとして農業後継者への引き継ぎ支援を行っていましたが、貯金の名義や組合員コードの変更などが中心で、後継者の育成については、状況が千差万別のため、組合員の自主性に任せていました」

そう話すのは、JA金沢市担い手支援室室長の酒井衛さん。しかし、農業技術の引き継ぎに失敗した結果、経営悪化による離農や、市場への個人出荷、資材をインターネットで購入するなど、JA離れが進むケースが多発した。

「JA全体の認識を改め、部署間の連携を強化して、より実践的な支援を行うことが急務でした」(酒井さん)

「営農の継続・発展および資産の保全」「JA利用率の維持と増加」という目標を立て、承継すべき項目を明確にしてJA全体で共有し、支援体制と業務フローを確立した。

まずは、管内に五つあるアグリセンターに配属された二七人の渉外TACが、訪問活動の中で、事業承継のニーズを探る。集まった情報を担い手支